

(1) 検討委員会の意見・市民アンケートの結果・市民ワークショップの意見等

● 防災や災害時の対応に関すること

清水区における庁舎整備では「防災」がキーワードになる。

津波災害の想定地域であっても安全に生活できるまちづくりを進めるという視点(決意)が必要。

一時避難など、津波避難ビルとして庁舎が周辺の安全な場所となる。

民間ビルの見本となり、地域の防災性も向上させる役割も庁舎が担うべき。

● 清水のまちづくりや観光に関すること

各種計画の実現性。投資するエリアを絞る考え方も必要。

まちづくり、清水港の振興を総合的に担う部門の設置。

富士山が大きな観光資源。眺望を活かすべき。

大学や学校との連携、若者の活動支援ができる施設。

● 庁舎や行政のあり方・機能等に関すること

本当に必要な機能を将来を見据えて戦略的に考えるべき。

ストックの有効活用、財政面の視点も大事。

他の行政機関等との複合化。ワンストップサービスの実施。外国人も相談できる窓口。キッズスペース、多目的トイレ設置。分かりやすい案内表示、手続き。利用しやすい駐車場・駐輪場。バリアフリーの行き届いた庁舎

小さく、機能の充実した庁舎。

コンパクトで防災、市民サービス、まちづくりに特化した庁舎。

商店街は活気が戻りつつある。この時期に庁舎を市民の安心・安全のランドマークとして、まちづくりに活用。

災害に強い庁舎。

駐車場を買物や観光にもシェアできる考え方。休日開放利用。

まちづくりの起爆剤として庁舎整備を位置付けてはどうか。

地域や人を守る庁舎。

市民団体も利用できる多目的な会議室。

災害が起こっても業務が継続できる。

若者、学生が活動に利用できる場所(会議、セミナー、シェアオフィス)、活動を支援する場所。大学や高校との連携機能。人口減少対策としての企業支援、オープンイノベーションの場。

庁舎に人を集めるだけでなく、周りのハブとなる庁舎であるべき。観光サービスのハブ機能(情報、楽しく待てる場所)。

観光案内所を設置、Wi-Fiスポットなど、清水の情報を発信(外国人観光客にも)。観光機能の集約。清水エスパルスの情報提供。

レンタル自転車、カフェやレストランなどの併設。ライブラリー機能、市民ギャラリーなどの文化施設の併設。銀行、郵便局の併設。

民間と共有する庁舎。夜間営業できる民活フロア。

公共交通機関で行きやすい場所

先進的な環境配慮型庁舎。

清水区内全域に利便性のよい交通結節点への立地。

緑を感じ、木のぬくもりのある庁舎。緑化して人の集まる憩いの場所とすべき。

○日常としても観光としても 誰もが行きたくなる楽しい庁舎～日常がおどるまちの発進地～
○交流が生み出され 経済が回る仕組みの中心
○さあ行こう！清水の宝集う港への入り口へ～新生清水が創る夢あるコミュニティエリア～

(2) 基本理念・基本方針（案）

新清水庁舎建設検討委員会や市民アンケート、市民ワークショップ等からは、防災性の向上、観光やまちづくりに貢献する機能、幅広い市民が利活用できる施設、身の丈にあった規模による庁舎整備など、様々な意見をいただきました。

これらを防災・災害対応、まちづくりや観光、庁舎や行政のあり方・機能の3点に整理し、3つの軸から新たな庁舎の基本理念と基本方針を掲げます。

庁舎の基本理念(案)

「明日の清水のまちづくり」をリードする
日常に溶け込み感動をもたらす庁舎

清水区の まちづくりの拠点

人と人がつながり
まちに賑わいを生み出す庁舎

庁舎の基本方針 (案)

清水区民の 行政サービスの拠点

経済性に優れ
誰もが訪れやすく
使いやすい庁舎

清水区の 安心安全の拠点

人やまちを守り
様々な災害に対応する庁舎

